

IAUD Newsletter vol.14 第9号(2021年12月号)目次

1. TEAM EXPO 2025 共創パートナー オンラインセミナー開催報告..... 1
2. 第14回 UD 検定・中級オンライン開催のご案内..... 6
3. IAUD 12月の予定..... 6

TEAM
EXPO
2025

ポストコロナ時代の共生できる街づくりを考える

開催報告: TEAM EXPO 2025 共創パートナー事業オンラインセミナー
「ポストコロナ時代のユニヴァーサルな街づくり～EXPO2025を見据えて～」



オンラインセミナー「ポストコロナ時代のユニヴァーサルな街づくり」パネルディスカッションの様子

2025年に大阪で開催される「2025年日本国際博覧会(以下:EXPO2025)」参加型プログラム「TEAM EXPO 2025」の共創パートナーに認定されたIAUDは、オンラインセミナー「ポストコロナ時代のユニヴァーサルな街づくり～EXPO2025を見据えて～」を11月11日(木)に開催し、全国から技術者やデザイナー、省庁関係者、大学教授、医療従事者など約120名の参加を得て、大変盛況のうちに終了いたしました。

当日は有識者5名をお迎えして4つの講演とパネルディスカッションが行われ、ポストコロナ時代に求められる多様な生活者と共生する街づくりや新しいライフスタイルに関して、さまざまな視点から貴重なお話があり、大変有意義なセミナーとなりました。

今号のNewsletterでは、セミナーの開催概要を報告します。

IAUD は参加型プログラム「TEAM EXPO 2025」共創パートナー

「TEAM EXPO 2025」は、2025 年 4 月 13 日から 10 月 13 日に大阪府夢洲(ゆめしま)で開催される EXPO2025 のテーマ「いのち輝く未来社会のデザイン」を実現し、SDGs(国連が定める持続可能な開発目標)の達成に貢献するために、多様な参加者が主体となり理想とする未来社会を共に作り上げる参加型プログラムです。

「TEAM EXPO 2025」を実現する「共創パートナー」に認定された IAUD は、研究部会に新設された「EXPO2025 特別プロジェクト」が主体となり、EXPO2025 開催までに UD に関するさまざまな研究活動を「共創チャレンジ」として実施していきます。

今回のセミナーはそのキックオフイベントとして、協賛にパナソニック株式会社と株式会社イセト、後援に大阪府、公益社団法人 2025 年日本国際博覧会協会、大阪商工会議所、産経新聞社のご協力を得て開催しました。

なお、当日の情報保障は、発言内容を画面上に表示する要約筆記を配信しました。

※「TEAM EXPO 2025」公式サイトは[こちら](#)をご覧ください。

※「TEAM EXPO 2025」共創パートナー認定を掲載した Newsletter は[こちら](#)をご覧ください



司会進行の川原啓嗣専務理事と登壇者

講演 1: EXPO に求められるユニヴァーサルな街づくり

川内 美彦氏 (アクセシビリティ研究所主宰)

当事者の視点と建築家の立場から日本の UD を先導している川内氏からは、UD の定義「可能な限り最大限に使いやすい」を実現した取り組みについてお話がありました。

まず、UD の実現には当事者参加の事前検討と事後評価、情報共有が重要であり、それを繰り返すことが社会の継続的な改善につながるとし、事例として 2005 年開港の「中部国際空港」を紹介しました。

障害者や設計者などからなる「UD 研究会」による 106 回もの検討会の結果、空港トイレでは大きいトイレブースやフラッシュライトを設置したり、階段とエレベーター、エスカレーターをすべて一目でわかるよう配置して利用者に選択できるようにするなど、後に他の空港や施設にも採用されるデザインを実現したと説明しました。

また、新国立競技場での「UD ワークショップ」実施や、東京都の恒久施設デザインへの「アクセシビリティ・ワークショップ」開始など、現在では国家的大事業に UD を標榜するのは必然で、UD の実現には当事者参加の設計が不可欠という認識も共通になっていると指摘しました。

さらに、国際的な関心は単なるハード整備から「いかに平等に使えるか」へ移行しており、EXPO2025 では 2021 年の東京オリンピック・パラリンピックで作成された「Tokyo2020 アクセシビリティガイドライン」を基に、当事者参加によるワークショップで意見を肉付けすることが必要だと提言しました。

最後に、UD は使い手の人権や尊厳を実現するもので、UD の実現には使い手の関わりが必須であると締め括りました。



講演 2: 梅田1丁目1番地計画 大阪梅田ツインタワーズ・サウス

“つながる梅田の中心“を目指した取り組み

松田 圭洋氏 (阪急阪神不動産株式会社 開発事業本部技術統括部)

EXPO2025 開催地大阪の最も密なエリアにUDを導入している松田氏からは、JR 大阪駅南側に 2022 年春完成予定の高層ビル及び周辺公共施設を整備する開発事業についてお話がありました。

まず、公共施設整備としては、地下道や歩道の拡幅、歩道橋の美装化・耐震化、エレベーターやエスカレーターの設置等によるバリアフリー化を実施することで、地下・地上・デッキレベルの 3 層歩行者ネットワークが強化され、歩行者空間の快適性・利便性が向上すると説明しました。

次に、百貨店(阪神梅田本店)、オフィス、カンファレンスゾーンから成る地上 38 階建てビル「大阪梅田ツインタワーズ・サウス」について、オフィスには多様な人の出会いを繋いでいく共有スペースとしてワーカー専用フロア「WELLCO」を設けたり、災害時にはカンファレンスゾーンや屋上広場を一時避難できるスペースに活用できると述べました。

さらに、ビル外観は「梅田木立」という、時の移ろいと自然を感じるデザインコンセプトから、低層部分は植栽プランターを立体的に配置する壁面緑化を構成してヒートアイランド対策にも寄与したり、高層部分は環境性・意匠性を両立した日射遮蔽と眺望を最適化する仕様を紹介しました。

また、優れた耐震性能や 72 時間電源供給、地下水利用可能など、非常事態にも事業が継続できる BCP(事業継続計画)の導入や、日本政策投資銀行の認証制度「DBJ Green Building 認証」最高ランク取得など、環境面でも高い性能を有していると述べました。



講演 3: 建築・都市と新たなコミュニケーション

齋藤 精一氏 (パノラマティクス主宰)

共創しながら実証実験を通じて技術革新の促進をはかる「People's Living Lab (未来社会の実験場)」クリエイターでもある齋藤氏からは、これからの建築・都市はどのように変化し、ユニヴァーサルな街づくりの実現に向けて何を考えるべきかお話がありました。

まず、コロナ禍で人は「いのちの豊かさ」を求めるようになったとし、その事例として齋藤氏が審査副委員長を務める 2021 年度グッドデザイン大賞「遠隔就労・来店が可能な分身ロボットカフェ」を挙げ、からだが自由に動かなかったり、さまざまな事情や理由で外出ができない人たちに就労の機会を与えた取り組みが評価されたことは社会的に大変意義があり、これからは大量生産・消費ではなく、コミュニティに最適化する時代であると述べました。

さらに、テクノロジー、アート、コミュニケーションも道具として考える時代になったとし、齋藤氏が取り組んだ「ART という街の入り口を創る」をテーマにしたイベント「Sense Island-感覚の島-暗闇の美術島」「MIND TRAIL 奥大和 心のなかの美術館」を紹介しました。

さらに、これからは文化を中心とした街づくりの時代であり、文化の周りに経済圏をつくり、それが共創・競争しながら拡大していくと述べました。

最後に、コロナ禍でこれまで積み上げてきた多くの方程式は変革を余儀なくされており、都市開発も改めて多視点で見直し、SDGs で提唱されていることをよく考え社会的に行動しなければならないと提言し、EXPO2025 ではヴィジョンを共有し、実装できるアイデアを紡ぎ、世界が目指すべき社会を提示することが最大の目標であると締めくくりました。



講演 4: 華道におけるもてなし

池坊 専好氏 (華道家元池坊 次期家元)

EXPO2025 理事・シニアアドバイザーでもある池坊氏からは、多様な人をお迎えする EXPO2025 という場で、おもてなしや心配りの一助となる華道とのつながりについてお話がありました。

日本の伝統文化でのおもてなしには、自然という概念があり、作意が見えないよう、または見せないことに価値が置かれているとし、いけばなでのおもてなしの事例として、平和や発展を祈る献花や、床の間で客人から一番きれいに見えるいけばなの配置などを挙げました。

そして、いけばなにある自然や草木との対話の中で育まれる精神性こそがおもてなしであり、それはいのちを慈しみ人を大切にすることで、EXPO2025 のテーマ「いのち輝く未来社会のデザイン」とも根本的に重なり合うと説明しました。

さらに、枯れた花にも華があり、ありとあらゆる形や状態の草花にも美しいいのちが輝いているとする池坊いけばなの哲学に触れ、いけばなはそれぞれのいのちや個性を尊重し、最大限の良さを発揮しながら周囲と調和して一瓶をつくり出すことであると述べました。

そして、時の移ろいを示唆したり、草木の姿や性状に祈りを込めたり、雄大な自然を切り取った一瓶で想像力を掻き立てたり、儂いいのちの一瞬の輝きを一瓶に表し気づかせるなど、さまざまないけばなの事例を紹介しました。

最後に、現代に示唆を与える一つのヒントとして、伝統文化である華道の根底にあるいのちへの敬意や畏怖、あるいは共生という思想を再考することも必要であると提言しました。



パネルディスカッション: 次代を拓くユニヴァーサルな街づくり～ポストコロナへの提言～

パネリスト: 松田 圭洋氏、齋藤 精一氏、池坊 専好氏

進行: 中尾 洋子氏 (パナソニック株式会社 デザイン本部未来創造研究所)

まずはパナソニック株式会社で UD 推進を担当している中尾氏より、同社の街づくりの事例「Fujisawa サステナブル・スマートタウン」の紹介がありました。

これは、神奈川県藤沢市との官民一体共同プロジェクトで、1,000 世帯 3000 人が住まうスマートタウンとして住人の暮らし起点の街づくりを目指しており、コロナ禍でも課題と向き合い、自動配送ロボットの実証実験やオンラインでのコミュニティ醸成活動などを実践したと説明しました。

続いて、1 つ目のテーマ「ポストコロナにおいて、どうやって街の多様性への配慮を高めていけばよいか」に関し、3 人のパネリストによる意見交換が行われました。

松田氏は、大阪梅田ツインタワーズ・サウスを多様な人がアクセスできる交流の場とするための取り組みとして、百貨店の外壁の一部をガラス張りにすることで、自然光が店内に入り天候や時間が感じられ、店舗の賑わいが外から見えることで新たなお客様に会場いただけた点を紹介しました。さらに、カンファレンスゾーンと百貨店、百貨店と阪神大阪梅田駅を繋げるシームレスアクセス、さらに安心・安全を感じてもらえる高い耐震性の構造設計を挙げました。

齋藤氏は、テクノロジーの一番得意な全体把握とマッチング力を活かして真に多様性を配慮した街を作るべきであるとし、今までの街づくりはトップダウンの開発が多かったが、これからはコミュニティや人の力を重視したボトムアップの開発を考える必要があると述べました。さら



進行の中尾氏

に EXPO2025 に向けコミュニティを横に繋げていく試みとして、2022 年 7 月開始予定の「サイバー一博」を挙げました。

池坊氏は、今後アートや文化は社会問題を解決するために重要な役割を果たしていくとし、コロナ禍で文化のオンライン利用が進み、これまで文化に関心のなかった人や金銭面や時間、身体的な理由で文化に関われなかった人も容易に文化にアクセスすることができ、そこで得た充実感や達成感など個人の幸せが家族やコミュニティ、社会の幸せにも通じていくと述べました。

続いて、2 つ目のテーマ「ポストコロナにどうやって地球・自然との共生に自分ごと化して取り組めるか」について議論しました。

松田氏は、大阪梅田ツインタワーズ・サウスでの季節感があり地域に自生している樹種を用いた大規模な壁面及び屋上緑化で街中でも自然を感じてもらい取り組みや、日常生活が豊かになるヒントを提供する百貨店スタッフがお客様とイベントや SNS で交流するなかで、売り手・買い手の関係から親友のような関係を目指した取り組み「ナビゲーター制度」を紹介しました。

齋藤氏はこれまで実践してきたアートイベントの経験から、自分ごと化するためには地域の人を巻き込みながら進めること、経済効果を付けて持続可能にすること、都心部と他の地域を結び付け相互に気づきを起こしていくことが重要だと述べました。また、参加人数を適切に維持できるようイベントの告知先には配慮するが、成功事例としての報告は広く公開することが大切だと述べました。

池坊氏は、伝統文化は SDGs だからこそ続いてきており、いけばなを通して環境問題を意識してもらうための取り組み「外来種いけばな」や「もったいないプロジェクト」を紹介し、EXPO2025 の使命は地球環境や世界平和など人類共通の課題や危機感を分かち合い、解決法を探っていくことだと締めくくりました。

このように、多様な視点から非常に有意義な意見が多く述べられ、大変充実した議論が行われました。



活発な意見交換が行われたパネルディスカッション

SDGs 達成に貢献し理想の UD 社会を実現

EXPO2025 共創パートナーとして初のイベントとなった今回のセミナーには、日本全国から多くの方にご参加いただき、お陰様で無事に終了することができました。

登壇者の皆様からは、ポストコロナ時代に EXPO2025 へ向けて街はどのように変化していくべきか、非常にわかりやすく素晴らしい講演をしていただきました。さまざまな角度から貴重な提言がたくさんあり、また UD をより多くの人に理解していただく大変よい機会にもなりました。

参加者からも、「非常に先進的なお話を聞くことができた」「中身の濃い充実した内容だった」など、高い評価をいただきました。このセミナーが、EXPO2025 に向けたユニバーサルな街づくりの一助となれば幸いです。

IAUD はこれからも共創パートナーとして、SDGs 達成に貢献し理想の UD 社会を実現するために、IAUD 研究部会標準化ワーキンググループが推進してきた「体験型 UD 教育プログラム」を大阪府内の小・中学校で実践する「子供 UD 現場教育プログラム」や、EXPO2025 に UD が関わる事案を研究し成果を関係部署に提言する「EXPO2025 UD 研究会」など、さまざまな活動を実施していく予定です。

つきましては、今後とも皆様のご協力・ご参加をどうぞよろしくお願い申し上げます。



在宅で好きな時に UD 資格習得

第 14 回 UD 検定・中級オンライン開催のご案内

IAUD は「第 14 回 UD 検定・中級」をオンラインで開催します。「UD 検定・中級」は、力試し問題と UD 検定・中級試験(70 分・129 問)を受けていただきます。試験問題は、公式テキストブック「知る、わかる、ユニヴァーサルデザイン」(A4 判 263 ページ)に準拠して出題されます。受験される方は事前に公式テキストブックをご購入し、ご自身で学習された後に検定試験をお受けください。

初級、中級とも合否は検定試験終了後すぐに判定され、合格者には認定証を発行します。

「第 14 回 UD 検定・中級」申し込み受付は 12 月 23 日(木)までです。この機会に是非、ご参加ください。

※「第 14 回 UD 検定・中級」詳細・申し込みは[こちら](#)をご覧ください。

※UD 検定・中級オンライン実施開始を掲載した Newsletter は[こちら](#)をご覧ください。



中級受験に必須の
公式テキストブック

IAUD 2021 年 12 月の予定

月	火	水	木	金	土	日
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16 14:50~ 衣の UDPJ オンライン会合	17	18	19
20	21	22 16:00~ 第 4 回 Hello! TEAM EXPO 2025 Meeting オンライン配信	23 第 14 回 UD 検定 中級申込受付締切	24	25	26
27	28	29 IAUD 事務局 冬期休暇	30 IAUD 事務局 冬期休暇	31 IAUD 事務局 冬期休暇		

※IAUD 事務局は、2021 年 12 月 29 日(水)~2022 年 1 月 4 日(火)まで冬期休業いたします。

次号は 2022 年 1 月上旬発行予定

特集: 古瀬理事長より新年のご挨拶 / 第 4 回 Hello! TEAM EXPO 2025 Meeting 参加報告 ほか

一般財団法人国際ユニヴァーサルデザイン協議会
事務局: 〒225-0003 横浜市青葉区新石川 2-13-18-110
電話: 045-901-8420 FAX: 045-901-8417 e-mail: info@iaud.net